



[全5巻]+補巻

●総編集

佐々木力

●編集補佐

柏崎昭文

●編集解説協力

小林龍彦・馮立昇

# 三上義夫著作集

日本数学史研究を国際的水準に高めた歴史家の膨大な著作から、

未来の世代へと継承されるべき珠玉の諸論文を精選し、

一望のもとに!

日本評論社刊

第1巻

[佐々木力編集解説]

# 日本数学史

遠藤利貞(1843-1915)に次ぐ、和算史の大家三上義夫の江戸期の数学史論考を中心に集録。なかには、日本数学史研究にとっての必読文献あり、稀有の論考もある。

第2巻

[小林龍彦編集解説]

# 関孝和研究

三上義夫は、和算を日本独自の独創的な高等数学の域にまで高めた数学者関孝和(1645?-1708)の研究を「伝説上の人物」から実在した「生身の数学者」として批判的歴史学の対象とした。東北大学に提出した学位論文をはじめ、関研究にとって必須の論考を集録。

第3巻

[佐々木力編集解説]

# 日本測量術史・日本科学史

数学史プロパーのみならず、測量術史やその他の日本科学史研究に大きな足跡を残した日本史家三上の知られざる文業を伝える。

第4巻

[馮立昇編集解説]

# 中国数学史・科学史

三上義夫と遠藤利貞の決定的相違は、日本数学の源流をなす中国数学をも自らの歴史記述のなかに据えたことであった。中心的論考は中国語にも翻訳され、そして李儼や錢寶琮ら中国数学史家の出発点にもなった。

第5巻

[佐々木力編集解説]

# エッセイ集

三上は明治生まれの知識人として、幅広い教養に裏打ちされた名エッセイストでもあった。和算史の中核的論著を圍繞する味わい深いエッセイ群を集成。

補巻

# 三上義夫伝 柏崎昭文著

精細にして丹念な史料調査に基づいて、日本史の専門家としての三上義夫の全体像をはじめて公にする注目すべき労作。

## 推薦の辞

### 東アジア数学史研究の先駆けとしての三上義夫

Roshdi Rashed  
ロシュディー・ラーシェド  
国際科学史アカデミー会員・東京大学元教授

『三上義夫著作集』全5巻が、佐々木力を総編集責任者として刊行されようとしている。佐々木力は、私が1990年代半ば東京大学教授だった時代以来の同僚にして友人である。私は、数学史の学問的世界に向けて、アラビア語でのイブヌル=ハイサムほかの数学的著作を知らしめる努力をなしてきた。いま、数学史の中国と日本の仲間が東アジアの数学史について同様の努力をなしている。数学史は西洋世界に限定されるわけではない。三上は私の目中的同僚の先駆けであった。私は、このたびの三上著作集企画を全面的に支持するものである。日本の真摯な読者が、この企画を支援されんことを願う。

### 三上義夫は中国数学史にとってもパイオニア

Liu Dun  
劉鈍  
国際科学技術史学会会長・中国科学院自然科学史研究所研究員

三上義夫は中国数学史のパイオニアのひとりと思われている。李儼や錢寶琮と同等と考えられているのである。また彼は英文の *The Development of Mathematics in China and Japan* (Teubner, 1913) によってだけでなく、『支那数学の特色』の林科棠による中国語訳《中國算學之特色》(商務印書館)によっても中国数学史研究に影響を与えている。総編集責任者の佐々木力、それに第4巻解説を書いている馮立昇は、ともに私の友人である。国際科学技術史学会の現会長〔2010年当時〕として、私は『三上義夫著作集』の企画を全面的に支援するとともに、東アジア数学史研究の加速的前進を願うものである。  
(所属・2010年時点)

戦前の日本で、もっとも包括的で、かつ学問的水準が高く国際的にも高く評価された数学史家は、三上義夫(1875-1950)であろう。戦後になって数学史研究の重心は西欧数学史研究に移動し、その分野で近藤洋逸、原亨吉らによるすぐれた業績が生み出されるようになった。だが、戦後の日本数学史研究の水準は、三上義夫や、日本学士院編『明治前日本数学史』全5巻の著者藤原松三郎に比肩されうる水準にまでは到達していないのが実情ではなかろうか。いま、日本数学史をナショナルスティックないかなる偏狭な視野からも自由な国際的観点から再評価する学問的機運が高まり、現実に関孝和や建部賢弘を顕彰する国際会議が近年相次いで開催されている。

本著作集は、そのような新たな学問的要請に答えて、佐々木力を総編集責任者、その編集補佐として柏崎昭文を中軸に据え、また、和算史研究の当代の第一人者小林龍彦(前橋工科大学名誉教授)、および中日数学史研究の権威馮立昇(Feng Lisheng, 清華大学教授)を迎え、日本と中国の学界が協力して、数学史・科学史研究の新しい世代に提供しようとする。私は数学上は、藤原松三郎の孫弟子に当たる者であるが、藤原先生は1940年、三上の著作がまとまっていると好都合と、著作集公刊の希望を暗に漏らしていた。その希望はいま実現される。

三上の著作は膨大で、必ずしもその研究対象は日本に限定されているわけではなく、中国(時にヴェトナム)をも視圏に収め、そして数学史だけでなく、他の分野の医学史をも含めた科学史・技術史にまで及んでいる。本著作集は、三上の著作群から未来の世代へと継承されるべき諸論文を精選して全5巻として編集し、さらに柏崎による精細な研究を基にした『三上義夫伝』を補巻に収め、学界の長年の期待に応えようとするものである。明治という稀有の時代が産んだ三上という世界的学者の文業は、賛嘆の声を新たに呼び起こすに相違ない。

私は以前、岩波文庫の一冊として、1999年に『文化史上より見たる日本の数学』を新たに編集して世に問うた。このたび、その小冊に収録された著作以外の三上の文業が公にされる。中日数学史に加えて、いま朝鮮数学史も面目を一新しようとしている。西欧数学史、アラビア数学史は、すでに、きわめて高い水準に達している。東アジア数学史も同様の水準に導かれることが切に望まれる。その分野でほとんど最初の本格的歴史家三上の著作の全容が明らかになろうとしている。江湖の数学、数学史、数学教育、文化史の担い手が本著作集を快く迎えられることを！

## ●三上義夫略年譜

1875(明治8)年2月16日 広島県高田郡上甲立村(現在、安芸高田市甲田町)有数の大地主、三上本家の安国に、十代目三上助左衛門安忠を父に、勝を母として生まれた。  
 1890(明治23)年12月25日 広島県広島市広島高等小学校高等小学科卒業。  
 1891(明治24)年4月 千葉県尋常中学校二年級入学。  
 1895(明治28)年4月 国民英学会・東京数学院をともに卒業。  
 1896(明治29)年5月21日 近藤タケと結婚(義夫21歳、タケ17歳)。  
 1896(明治29)年 仙台第二高等学校(工科理科農科)に入学。が、眼疾のため休学、のちに退学。  
 1901(明治34)年から1902(明治35)年 文部省中等教員検定試験受験、中等学校数学科免許状授与。  
 1905(明治38)年 ハルステッド博士から和算史を調査して西洋へ紹介することを勧められる。  
 1908(明治41)年11月 菊池大麓博士に紹介され、帝国学士院で和算調査開始。  
 1911(明治44)年10月 東北帝大の林鶴一の助手招請を断り、東京帝大文科大学哲学科選科に入学。  
 1913(大正2)年 *The Development of Mathematics in China and Japan*. (Leipzig, Teubner) を公刊。  
 1914(大正3)年 *A History of Japanese Mathematics* (David Eugene Smith との共著) (Chicago, Open Court) を公刊。

1914(大正3)年7月 東京帝国大学文科大学哲学科選科を修了し、同大学院進学。  
 1918(大正7)年9月10日 遠藤利貞『増修日本数学史』(岩波書店三上義夫増補訂正)。  
 1922(大正11)年3月より「文化史上より見たる日本の数学」(『哲学雑誌』(東京帝大哲学研究室)発表。  
 1923(大正12)年12月 帝国学士院和算史調査囑託を解雇される。  
 1929(昭和4)年5月21日 国際科学史委員会通信会員に唯一の日本人として選ばれる。  
 1930(昭和5)年5月24日 来日したスミスと会う。  
 1933(昭和8)年~1944(昭和19)年 東京物理学学校講師、のちに教授となり、和漢数学史を講義。  
 1945(昭和20)年1月22日 妻タケが66歳で病没、まもなく空襲で家も失う。  
 1945(昭和20)年4月2日 千葉大原へ避難。  
 1945(昭和20)年5月18日 広島県の郷里へ疎開。  
 1947(昭和22)年7月10日 『文化史上より見たる日本の数学』(創元社)刊行。  
 1947(昭和22)年 『日本測量術史之研究』(恒星社厚生閣)並びに『日本数学史』(東海書房)を刊行。  
 1949(昭和24)年12月5日 東北大学から理学博士の学位を授与される。  
 1950(昭和25)年12月31日 永眠、享年75歳。戒名は理学院教導義仙居士。

## ● 編者紹介

Sasaki Chikara

佐々木 力

1947年宮城県生まれ。東北大学理学部数学科卒業、大学院博士課程を経て、米国プリンストン大学大学院で科学史・科学哲学を学び、Ph. D. 取得。1980-2010年、東京大学教養学部・大学院総合文化研究科で数学史を中心として30年間教壇に立つ。国際数学史委員会執行委員。2012年秋から中国科学院大学人文学院教授。現代東アジアを代表する数学史家。

### 主要著作

『科学革命の歴史構造』全2巻(岩波書店)、『近代学問理念の誕生』(岩波書店、1993年サントリー学芸賞受賞)、『デカルトの数学思想』(東京大学出版会)(英語版*Descartes's Mathematical Thought*, Kluwer Academic Publishers)、『科学論入門』(岩波新書)(ブラジル-ポルトガル語版 *Introdução à Teoria da Ciência*, Editora da Universidade de São Paulo)、『二十世紀数学思想』(みすず書房)、『数学史入門』(ちくま学芸文庫)、『数学史』(岩波書店)、『ガロワ正伝』(ちくま学芸文庫)、『東京大学学問論——学道の劣化』(作品社)など多数。

## ● 造本

A5判・上製

各巻=450~650頁

予価=10,000円

全巻=60,000円(本体)

頁数および定価変更の場合はご承ください

[全巻予約受付中]

# 三上義夫 著作集 [全5巻]+補巻



2016年7月刊行開始

- 第1巻 日本数学史 2016年7月刊
- 第2巻 関孝和研究 2016年11月刊
- 第3巻 日本測量術史・日本科学史 2017年3月刊
- 第4巻 中国数学史・科学史 2017年7月刊
- 第5巻 エッセイ集 2017年11月刊
- 補巻 三上義夫伝 2017年12月刊

●必要事項をご記入の上、最寄りの書店にお持ちいただくか、直接小社まで郵送または、FAXにてお申し込み下さい。

申込書	書店名 番線印	三上義夫著作集[全5巻]+補巻	
		□□□-□□□□ 〇住所	
		〇お名前	
		〇お電話	
全6巻 [ ] セット	分売可 [ ] 巻 [ ] 冊	〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4 TEL:03-3987-8621 FAX:03-3987-8590	
		 <b>日本評論社</b> <a href="https://www.nippsy.co.jp/">https://www.nippsy.co.jp/</a>	